

全国の動物園水族館では、持続的な動物展示を可能にするため、飼育動物の確保が課題となっています。しかし、ただ増やしたり集めたりすれば良いわけではなく、「飼育動物の遺伝的多様性を維持しながら」という難しい条件が加わってきます。

今回、大森山動物園はアムールトラの展示を続けていくために、新たなメスを海外から導入しました。その取り組みについてご紹介します。

飼育展示担当 主席主査 三浦 匡哉

特集

アムールトラの導入について

1 2014年の大森山動物園

2014年当時の飼育は、アシリ(メス15歳)とヒロシ(オス3歳)でしたが、アシリとヒロシは祖母と孫の関係であるため、ヒロシのお嫁さんを探すことにしました。

お嫁さんを探すのは簡単ではありませんでした。日本国内ではヒロシの親戚が多く、これ以上この家系を増やすと国内アムールトラの血統に偏りが生じてしまうからです。ヒロシのお嫁さんはいずこに…。



ヒロシ



アシリ
(2015.5.27死亡)

2 救いの手現る

そんな中、大きな動きがありました。公益社団法人日本動物園水族館協会がアムールトラのGSMP(国際種管理計画 Global Species Management Plan)という、絶滅の危機にある野生動物の種の保存や血統管理を行う国際的な取り組みに参加することになったのです。これにより、国内では探せなかったヒロシのお嫁さんが海外から来る可能性ができたのです。またとないチャンスです。

そこで、同協会のアムールトラの繁殖計画管理者である神戸市立王子動物園の担当者に連絡し、ヒロシのお嫁さん候補について相談しました。すると、ロシアに良いお嬢さんがいるというではありませんか。お嫁さんの名はカサンドラ! この絶好の機会を逃すわけにはいきません。

3 チャンスを活かすために

ロシアの動物園が無償でアムールトラを譲ってくれることがわかりました。とはいえ、ロシアからトラを連れてくるには相当のお金がかかります。そこで、次年度の予算にトラの輸送費を計上することにしました。市長や議会にアムールトラ導入の重要性について説明した結果、無事に予算が認められました。

4 難関また難関

これまで大森山動物園では外国の動物園から動物を直接導入することがほとんどなかったため、動物の輸入に不慣れです。そこで、海外からの動物導入の経験豊富な各地の動物園に問い合わせ、いろいろと貴重な情報をいただきました。

動物を輸送する業者も決まり、ホツとしたのもつかの間、海外から希少な動物を輸入するための様々な手続も進めなくてはなりません。言葉の通じないロシアのノボシビルスク動物園との間で動物をやりとする書類の作成、合意後にはトップのサインを交わした書類の交換などです。

続いて、最大の難関「ワシントン条約」です。飼育下で生まれた動物の輸入では、繁殖を目的にした内容で書類を準備しますが、今回輸入するトラのお母さんが野生由来だったため、さらに厳格な審査が必要となったのです。国(経済産業省)の指導のもと、こちらでも何とかクリアすることができました。

そして危険なトラを輸送するため、箱の許可など様々な手続きで難関また難関の連続でした。



経済産業省の証明書

5 待ちに待ったカサンドラの到着

当初、2015年度の通常開園中に展示することを目標にしていました。ロシアからも「早くしないと親と同じくらいの大きさになってしまう」と急かされていました。

しかし、輸入の手続に思っていたよりも時間がかかり、予定が「通常開園中」から「年内」、さらに「年内」から「2月末」とずれ込んでいきました。真冬のロシアは平均気温が氷点下20℃前後とかなり寒いので、移動するには過酷なコンディションです。このままでは年度内の搬入も難しいのではと心配していた矢先、3月上旬に輸入業者から連絡が入り、話はトントンと進み、3月17日に無事当園まで移動することができました。動物舎への搬入作業も無事に終わり、寝室に入ったカサンドラ。どれだけ大きなトラが来るのか不安でしたが、あどけなさの残るかわいいトラでした。



カサンドラの搬入

6 アムールトラの今後について

4月に入り、新しく仲間入りしたカサンドラは次第に大森山に慣れてきました。日本にはないカサンドラの血を入れることで、国内のアムールトラの遺伝的多様性を維持することができそうです。カサンドラの成長を見守りながら、ヒロシとの間に赤ちゃんが生まれるよう園一丸となって取り組みたいと考えています。



カサンドラ

7 まとめ

大森山動物園では、展示動物を維持するため「収集展示等検討委員会」を定期的に開催しています。

今回、アムールトラの導入は海外からの救いの手により課題を解決することができましたが、これからも当園は同協会と歩調を合わせ、希少種の保存に寄与しつつ、多くの来園者に喜んでいただけるような動物展示を継続していきたいと思います。